

東京農工大学学部における教育研究上の目的に関する規程の一部改正

現行		改正		改正理由
<p>本則</p> <p>(工学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)</p> <p>第3条 <u>工学部においては、工学分野の科学技術に関する基礎及び専門的知識・技術を教授し、解決すべき諸問題の本質を見抜く能力の涵養とそれらを持続可能な社会の実現に生かすことのできる幅広い教養と専門知識を有する人材を養成することを目的とし、各学科については、次のとおりとする。</u></p>		<p>本則</p> <p>(工学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)</p> <p>第3条 <u>工学部においては、工学分野の科学技術に関する基礎、専門知識・技術、専門性を発揮するために役立つ論理的思考力、表現力、多様性を受容する力や協働性を育む教養を学ぶ機会を提供する。主体性を持って人生を切り開いていくために必要な専門性と、人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察して判断し、自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく表現することができる能力を有する人材を養成することを目的とし、各学科については、次のとおりとする。</u></p>		
学科名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	学科名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	
生命工学科	<u>最先端の生命工学分野において、研究者・専門技術者・職業人として社会のニーズに即応しながら中核で活躍できる人材を養成するための基礎教育を行う。また物事を論理的に思考する能力を養い、国内外での学会発表等におけるコミュニケーション能力を身につけさせる。</u>	生命工学科	<u>生命に関連する科学技術全てを包含する多彩な学問領域の基礎知識を網羅的に習得した上で、最先端の技術力、論理的な思考力・実行力及び国際的コミュニケーション能力を身につけた、あらゆる生命工学分野のニーズに即応して活躍できる国際的な技術者・研究者を養成する。</u>	
応用分子化学科	<u>自然、生命、環境、エネルギーに関連した諸問題を解決し発展させるため、これらを原子、分子レベルで理解し、制御し、応用する能力を持ち、最先端の化学の中で活躍できる基礎力と創造性を持つ人材を育成する。</u>	生体医用システム	<u>現代医療における計測・診断技術に必要な物理学や電子情報工学等を融合した形で体系的に学ぶことで、医療にかかわる工学技術と生物学・医学とを総合的かつ深く理解する能力を有し、従来の学問体系に捉われない柔軟な</u>	

有機材料化学科	有機材料の本質を分子レベルおよび分子集合体レベルで洞察する能力を有し、高機能性と安全性・低環境負荷性の両立が可能な材料を自由に設計・合成・解析できる研究者および技術者を養成するために、化学を軸に物理学をも含めた材料科学指向の体系的な基礎・専門教育を行う。	工学科	発想のもとに革新的な生体医用工学技術の研究開発を行うことができる人材を養成する。
化学システム工学科	化学工学の基礎から専門までの知識を幅広く修得させ、地球、環境、エネルギー、新素材、生命、情報、社会システム等をキーワードに、新しい化学システムを創造することができる、かつ国際的な視野で活躍ができるケミカルエンジニアを育成する。	応用化学科	現代社会を支える化学・材料科学領域における諸問題を理解し、解決するために、基礎力、応用力、創造力に立脚した高機能先端材料の創製を通して、最先端の化学が関連する広範な産業に貢献できる人材を養成する。
機械システム工学科	環境と調和し時代を超える“Unique & Best”なハイパーマシンを創造する人材を育成すべく、数学・物理を基礎として機械工学全般にわたる基盤教育を推進する。知的な好奇心、洞察力と創造力、社会性と倫理観、経営センス、語学力と国際性を発揮して世界で活躍する技術者を理想像とする。	化学物理工学科	化学と物理の両方を総合的に学ぶことで、社会的ニーズが高まっているエネルギー・環境等のグローバルな課題に果敢に挑戦し、それらを解決できる実践力を涵養する。さらに、課題の全体像をシステムとして俯瞰し、ブレイクダウンし、さらに数理的に取り扱うことで課題の俯瞰・詳細化・最適化を行い、基本原理に立脚した要素技術・システムを提案し開発できる高度グローバルエンジニアを養成する。
物理システム工学科	物理学を基礎から体系的に学び、その基本原理を習得するとともに、論理的思考能力を培うことで、多様化し複雑化する工学的課題に対して、物理学的視点・方法から問題を発見・分析して、その解決の方策を実践的に展開させる能力を持つ人材の養成を目的とする。	機械システム工学科	機械システム工学の発展と革新を通じて、持続可能なスマートな社会を実現し、人類のフロンティアを開拓するイノベーション人材を育成する。数学・物理を基盤として機械システム工学全般に係る基盤教育を推進するとともに、機械物理科学と知能情報技術等の先端知識や、分野横断的な知を融合した専門教育を実施する。知的な好奇心、洞察力と創造力、社会性と倫理観、課題解決力、語学力と国際性を発揮して世界で活躍する技術者を養成する。
電気電子工学科	現代社会の持続的発展に不可欠な電気電子工学分野の基盤技術を支え、国際的に産業技術の進展に貢献できる人材を養成することを教育の目的とする。そのために、新しい素子・材料の創出をベースとした先端的な電気電子システムの構築、並びに、人間・環境と機械の間の情報	知能情報システム	人間と親和性の高い知的な情報システムの創出並びに次世代の情報社会の基盤となる高度情報システムの構築に必要な教育研究を行う。コンピュータのしくみやプログラミングなど情報工学の基礎から最新の人工知能まで、

	交換をおこなうための電子メディア技術の創出に必要な教育研究を行う。	工学	知能情報システム工学の専門技術を幅広く習得し、現代	
情報	実験や演習を通して「作」ることを経験し、新しい情報	科	社会が抱える諸問題の解決に貢献する高度 IT イノベーション	
工学	システムを「創」り出し、さらに「造」りあげる誇りと		ヨンを養成する。	
科	喜びを見い出しつつ、《創・造・作》の修得を目的とする。この理念に基づき、計算機の動作原理から最先端技術の実現方式に至るまで把握でき、研究者・技術者として第一線で活躍できる人材を養成する。			

附 則 (平成31年4月1日教規程第12号)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日現在在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。